



書きそんじハガキ・キャンペーン 2020成果報告書（2019年度事業）

集まったハガキ
（タンス遺産）

約 906,767枚

4,262万円の募金相当

完成した寺子屋

3軒

学んだ人びと

6,199人

皆さまからのご支援によって、アフガニスタン、カンボジア、ネパールで各1軒の寺子屋が完成。更にミャンマーを含め教育を受ける機会がなかった人びと6,199人が識字クラスや小学校クラス、幼稚園クラスほか技術訓練などを受講することができました。

※ 写真はカンボジアの小学校クラス



公益社団法人
日本ユネスコ協会連盟



私たちは持続可能な開発目標 (SDGs) を支援しています。

©DENTSU INC

90万枚以上の八ガキ（タンス遺産）達成！ ※ 約4,262万円の寺子屋募金に相当

前回の書きそんじ八ガキ・キャンペーンも、地域ユネスコ協会・クラブをはじめ、企業、団体、学校など多くの皆さまから多大なるご協力をいただきました。年賀はがきの販売枚数や利用の減少にもかかわらず、2019年12月～2020年10月の約1年間に集まった書きそんじ八ガキをはじめとする「タンス遺産」は約**91万枚**分。約**4,262万円**の募金に相当します

※1枚=47円で計算 現在集計中の八ガキ・切手を含めると最終的な数量は増える見込みです。

今年も書きそんじ八ガキ・キャンペーン応援キャラクター「書きそんじロー」をはじめとするタンス遺産3兄弟は、皆さまから大変ご好評をいただき、キャンペーンを盛り上げていきます。

1989年に開始した**世界寺子屋運動**は、2019年で**30周年**を迎えました。皆さまのご支援のおかげで、これまでに約134万人の人びとが寺子屋で学ぶことができました。

しかし、世界には、未だに学校に行けない子ども約1億2100万人（うち初等教育では5,900万人）、読み書きできない大人(15才以上)は7億7,300万人もいます。

現在、新型コロナウイルスの影響で、家計がより苦しくなったことで、子どもたちが学校を中途退学するリスクが高まるなか、寺子屋の役割はさらに重要になっています。たいへんな状況ではありますが、今年も皆さまで力を合わせ、書きそんじ八ガキ回収に取り組みましょう！





アフガニスタン寺子屋プロジェクト

寺子屋 (CLC)の設立・建設

カブール中部のバグラミ郡でアフガニスタンで17軒となる寺子屋が完成。2020年10月に開所式典が行われました。今後は、識字クラスや職業訓練クラスが実施されるなど、地域の人びとの生活向上のために活用されます。



バグラミ寺子屋。アフガンの寺子屋で初の2階建て。



教員、学習者ともに全て女性の識字クラス。



教育省と現地事務所による識字クラスの教員研修。女性クラスを担当する女性教員も育成された。

職業訓練クラス

裁縫クラス、刺繍クラスおよび革製品づくりなど地域の収入に結び付く技術研修を**12クラス**で**306人**が受講しました。



開所式典のテープカットの様子。式には、教育省副大臣はじめ多くの関係者、地域住民が参加した。

識字クラス

30年以上にわたる内乱により学校や教育システムが破壊されたアフガニスタン。最新の推計では成人識字率は38%と世界最低水準です。プロジェクトでは、特に女性の識字率向上のための識字クラスを実施しており、2019年度は、カブール近郊とバーミヤンを中心に**515人**が識字クラスを受講しました。プロジェクトでは、国内の紛争地から逃れてきた国内避難民も対象に、識字クラスや職業訓練クラスを行いました。



裁縫クラスは3か月から6か月行われます。



カンボジア アンコール寺子屋プロジェクト

18軒目となるポペル寺子屋が完成

2020年4月、シェムリアップ州ソニコム郡ポペル・コミュニティに18軒目の寺子屋が完成しました。

市街地から車で、片道1時間強の農村地域に位置しています。この地域は学校数はあるものの、貧困などのため14歳以下の子ども全体の17%超が学校に通うことができていません。そのほか、成人向け識字教育や職業訓練など、学びのニーズもさまざまなものがあり、それらに応える活動が始まっています。



ポペル寺子屋

寺子屋の自立進む - チョクニア寺子屋カフェ -

チョクニア寺子屋は、運営費捻出のため東南アジア最大の湖・トンレサップ湖を訪れる観光客向けに、小さなカフェレストランを開店しました。これにより、経営・調理・接客などの学びの場、国際交流の場にもなっています。さらに、ホテイアオイ製品作り、カンボジア国内外の教育関係者の視察受け入れなど、自立後も活躍しています。



カンボジア事務所職員もお店を訪問

合計1300人以上が学習機会を得た

シェムリアップ州内17軒の寺子屋で1,300人以上に対し、識字などの基礎教育や職業訓練などを行いました。学んだ子どもたちは中学校・高校進学などを経て将来の夢に向かい、大人たちは識字学習をはじめ、職業訓練・寺子屋運営などを通じた経験を積み、地域の担い手となっています。



識字クラス（上）と復学支援クラス（下）のクラスにも笑顔があふれる



進学先の中学校でクラス2位の成績を収め、表彰される寺子屋卒業生



ネパール寺子屋プロジェクト

1軒の寺子屋 (CLC)が完成！

2019年10月にはチトワン郡にギタナガール寺子屋が完成し、開所式典が行われました。寺子屋では今後、教育プログラムや職業訓練などが実施されているほか、行政の支援で2階の建設が始まっています。



ネパール南部チトワン郡に完成したギタナガール寺子屋

中級識字クラスの実施

2019年度は、4ヵ月間の中級識字クラスを継続実施し、150クラスで**2,999人**が中級レベルの識字クラスを受講しました。識字クラスでは、ネパール語の読み書きだけでなく、栄養学や料理などの日常に役立つ科目も学びました。識字クラスは寺子屋の建物だけでなく、識字教員の家や民家などさまざまな場所で行われました。



識字クラスでカレンダーの読み方を学ぶ女性

また、識字クラスの開始前には、地域の人びとから選ばれた教員が教授法や授業計画などについて学ぶ5日間の研修を受講しました。



民家で実施された識字クラス (ルンビニ)

成人初等教育クラス・幼稚園クラス

ネパールの寺子屋プロジェクトでは、基礎的な識字能力は身につけている女性たちを対象に成人初等教育クラス(1クラス**17人**)も実施しました。

ほかにも、小学校へのスムーズな入学を目的とした幼稚園クラス(2クラス**41人**)も実施しました。幼稚園クラスでは、ネパール語の単語や英単語を絵を見ながら学習するほか、歌や踊り、集団生活などを学びました。



幼稚園クラスの「おやつ」の時間 (ルンビニ)



ミャンマー寺子屋（継続教育）プロジェクト

3か年計画の3年目を終え、学んだ青少年は1440人に

バゴー地方域の4地域、バゴー郡タナットピン、タウングー郡オクトウイン、ピー郡ポカウン、ピー郡パウンデーに分布する計17の村を対象に、9か月間にわたる継続教育プログラムを行いました。それぞれの村で、学校を中途退学した10～17歳の子どもたち480人（2019年度）が参加しました。



学習者には学用品のほか、制服がわりのTシャツ、通学リュックも支給された

学校以外の学びの場が限られた女の子や障がいのある子どもたちの受け皿に

ミャンマーでは、僧院学校なども小中学校を中途退学した子どもたちの受け皿となっています。しかし男の子しか入れないケースも少なくありません。また、障がいを抱える子どもも、学ぶことをあきらめざるを得ません。継続教育プログラムでは、そういった女の子やハンデのある子どもたちにも多く利用されました。



クラスの9割が女子となった村も

読み書き計算にどどまらない学び

10代で働く青少年対象のため、「生活スキル」の授業には幅広いトピックを扱いました。タバコや薬物の危険性、HIV/AIDS予防、子ども・労働者の人権、自分と相手を共に尊重するコミュニケーションなど、社会問題や生活に直結したテーマを、子どもたちは座学だけでなく話し合いを通じて学びました。



グループワークに取り組む子どもたち

学習者の子どもたちによるボランティア活動

学習者たちも各クラスで協力し合い、雨期に洪水被害を受けた道路の補修や、仏教行事では僧侶へ袈裟を納めるなど、ボランティア活動を行った村もあります。現地の関係者からは、「働くばかりだったころに比べて、継続教育に参加した子どもたちは、態度がとても前向きになった」との声が上がっています。



村の清掃活動に取り組む子どもたち

■ 昨年キャンペーンのご報告

カンボジア、アフガニスタン、ネパールおよびミャンマーより、書きそんじハガキにご協力して下さった皆様へのお礼のメッセージをお届けします。

カンボジアより

「識字クラス」で学んだ女性からのメッセージ



「家が貧しく、私は長女だったので、小学校2年生で退学し、ずっと家事や農作業の手伝いをしていました。8年前、寺子屋の識字クラスで読み書き計算ができるようになり、その後、服の仕立てを習うことができました。今は、自宅で仕立屋をしています。寺子屋をご支援いただいた皆さんには、心から感謝しています。」

チョッ・プロムさん (35歳)

ミャンマーより

「継続教育プログラム」で学んだ子どもからのメッセージ

「中学校までは進んだけれど、2年前から学校に行っていません。雨期に稲作、その他は牛の世話や家事をしています。皆で働かないと生活は苦しい。クラスでは読み書きだけでなく、感染症や人身売買など、たくさんのことが学べて良かったです。将来、ミャンマー伝統音楽や伝統舞踊の学校で勉強するのが夢です。」

ニエンニエンイーさん (16歳)



アフガニスタンより

カブールの識字クラス（国内避難民キャンプ）で学んだ生徒からのメッセージ



「識字クラスで嬉しいのは、先生も生徒もみんな女性なことです。両親が学校に行かせてくれなかったのは、男女が一緒に勉強することを快く思っていなかったからです。最初は（母国語である）ダリ語の文字が難しかったですが、先生のおかげで理解できるようになりました。将来は助産師になりたいです。住んでいるキャンプでは多くの妊婦の人たちが離れた病院に行くのが大変ですから。」

バハラさん (15歳)

ネパールより

バグワンプル寺子屋の識字クラスで学んだ生徒からのメッセージ

「識字クラスでは簡単な計算を学びました。ですから、お店で買い物するにも自信がつかしました。ほかにも、自分の名前や家族の名前、村の名前も書けるようになりました。ゆっくりであれば簡単な文章も読むことができます。クラスはとても面白かったです」

ラクシミ・チョードリさん (45歳)

